

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では、昭和38年の創設時に学校の目的を定め、学則(資料1-1-①-1)に掲げた。平成7年には専攻科の目的を定め、学則(資料1-1-①-2)に掲げた。この目的は現在に至るまで一貫している。

資料 1-1-①-1

「本校の目的」

第1章 総則

(目的)

第1条 岐阜工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。

(出典 岐阜工業高等専門学校学則)

資料 1-1-①-2

「専攻科の目的」

第8章 専攻科

(設置)

第37条 本校に専攻科を置く。

(目的)

第38条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

(出典 岐阜工業高等専門学校学則)

平成15年には、創立40周年を機に新たな教育の基本方針(資料1-1-①-3)、教育理念(資料1-1-①-4)、及び養成すべき人材像(資料1-1-①-5)を定めた。

資料 1-1-①-3

「教育の基本方針」

本校への多様な役割が期待される中であって、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるといふ使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成するというのが本校の教育方針であります。教育理念、教育目標及びその具体的な内容は不断に改善し、計画的に教育・研究活動を実行しています。より具体的には、以下に示すような「教育理念」、「養成すべき人材像」及び「教育目標」を高く掲げ、教職員はその目標に向かって努力します。

(出典 学生便覧)

資料 1-1-①-4

「教育理念」

(1) 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。

(2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。

(3) 情報化社会の最前線で活動すること。

(出典 学生便覧)

資料 1-1-①-5

養成すべき人材像

科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者

(出典 学生便覧)

準学士課程及び専攻科課程の教育目標を、資料 1-1-①-6 及び資料 1-1-①-7 に示した。

資料 1-1-①-6

「教育目標」(準学士課程)

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

(出典 学生便覧)

資料 1-1-①-7

「教育目標」(専攻科課程)

- (1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
- (2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
- (3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
- (4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
- (5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

(出典 学生便覧)

各学科と専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標を (A) 倫理, (B) デザイン能力, (C) コミュニケーション能力, (D) 専門知識・能力, (E) 情報技術に分類し、卒業生・修了生全員が達成すべき内容として定めた。教育目標と、具体的な学習・教育目標の分類との対応を資料 1-1-①-8 及び 9 に示す。

資料 1-1-①-8

「学校の教育目標，各学科で養成する学力や資質・能力等の具体的な学習・教育目標の分類及び標語との対応」
◎は特に関与，○は関与

養成する学力や資質・能力等の学習・教育目標の分類 学校の教育目標 (準学士課程)	(A) 倫理	(B) デザイン 能力	(C) コミュニケーション能力	(D) 専門知識・能力	(E) 情報技術
(1) 広い視野を持ち，自立心と向上心に富み，教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成	◎	○			
(2) 基礎学力を身につけ，創造力，応用力，実践力を備えた技術者の育成		◎		◎	
(3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成			◎		◎
(4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成	◎				
(5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成	○	◎		◎	
標語	広い教養	ものづくり	英語	深い専門	IT

(出典 学生便覧)

専攻科課程の対応を資料 1-1-①-9 に示す。

資料 1-1-①-9

「学校の教育目標，専攻科で養成する学力や資質・能力等の具体的な教育目標の分類及び標語との対応」
◎は特に関与，○は関与

養成する学力や資質・能力等の学習・教育目標の分類 学校の教育目標 (専攻科課程)	(A) 倫理	(B) デザイン 能力	(C) コミュニケーション能力	(D) 専門知識・能力	(E) 情報技術
(1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに，異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成				◎	
(2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し，継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成		◎			
(3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成			◎		
(4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成					◎
(5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ，技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成	◎				
標語 (校長，教務)	広い教養	ものづくり	英語	深い専門	IT

(出典 学生便覧)

養成すべき人材像及び学力・資質・能力等の具体的な教育目標を資料 1－1－①－10～16 に示す。

資料 1－1－①－10

「養成すべき人材像及び学力・資質・能力」

一般科目(人文)で養成する人材像

今の時代が求めるものは、ひとつには専門的な知識と技術に精通した高度な専門性であり、ひとつには国際事情と人類の歴史についての該博な知識、そして確固とした倫理観に基づく高い見識である。またそれを獲得し伝達するためにコミュニケーションしようとする意欲と能力である。技術、情報、知識を操るのは人間であり、人間的基盤の健全な育成のため教養的かつ実践的な教育に一般科目(人文)は取り組んでいる。

以上にに基づき、一般科目(人文)では、以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている。

一般科目(人文) 養成すべき人材像

- ・人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を考えることができる広い視野と倫理観を持った人材
- ・日本語で十分に受容・発信できるだけでなく、外国語でも異文化に偏見を持つことなく受容・発信でき、獲得した広い視野、高い見識、倫理観を実社会で活かすことができる人材

一般科目(自然)で養成する人材像

人間に役立つ工学を活用し発展させるには工学の基礎となる物理・化学分野の自然法則を理解し、科学的な考え方を養うことが大切である。数学は自然法則を適切に表現するために必要不可欠な手段であるから、その手法や考え方を十分に学習しなければならない。

現代社会で科学技術の成果を利用しながら人間らしい健康な生活を送るためには、保健の知識を修得する必要がある、また、体育の心身に与える効用を体験的に理解しなければならない。

以上にに基づき一般科目(自然)では以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている

一般科目(自然)で養成すべき人材像

- ・数学・物理・化学の基礎的な知識をもち、専門分野にそれを応用する能力のある人材
- ・心身の健康についての知識を持ち、健康的な生活を送ることができる人材

一般科目で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標

- ・人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
 - ・心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。
 - ・日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
 - ・英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。
 - ・数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- 以上の学習・教育目標は準学士課程の各専門学科に共通のものである。

(出典 学生便覧)

人間としての倫理、芸術・保健体育に関する能力、コミュニケーション能力、数学・自然科学の基礎知識及びそれらを用いた問題解決能力は一般科目で対応し準学士課程のすべての学科に共通である。

資料 1－1－①－11

機械工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

機械工学は「ものづくり」技術の根幹を成す学際領域である。「ものづくり」は機械製品の立案計画段階である

(1) 機械設計と、これに続いた製品を具現化する段階である(2) 機械製作の2段階により構成される。機械設計は、機械技術者の叡智と経験とを集約・統合することによって、はじめて実現される創造的な営みの発露である。機械技術者をめざす学生は、機械設計技術の基盤である数学、物理、及び情報技術等を修得することが不可欠である。さらに、これらの科学技術を基礎として、機械設計技術に直結した「材料力学」、「流体力学」、「熱力学」、及び「機械力学」を中心とした力学関連教科目を修得しなければならない。

機械製作は、機械設計技術者により考案された製品のイメージを、実際の製品として具現化する崇高な創造的プロセスである。機械技術者は①経済性、②品質、③工期、あるいは④環境保全・安全についての所定の制約条件下で、最適な加工条件を見出し実現する重責を担っている。機械技術者をめざす学生は、生産機械操作についての実践的能力のみならず、生産技術に深い関わりのある「機械工作法」、「計測工学」、「制御工学」、及び「システム工学」等の教科目を修得しなければならない。

一方、「ものづくり」を効率的に遂行するために、機械技術者は、道具としてのIT技術を修得することが必要である。また、国内外の「ものづくりチーム」の一員として活躍するためには、「コミュニケーション能力」、及び「倫理観に基づく社交性」が求められ、機械技術者をめざす学生にはこれらの能力を滋養することが期待されている。

以上にに基づき、機械工学科準学士課程では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げて

いる。

機械工学科で養成すべき人材像

国際社会において機械技術者として活躍するための基礎学力を有し、社会情勢の急激な変化に柔軟に対処できる情報処理能力と情報解析能力を備えた人材

機械工学科の学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

(A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。

(A-2) 機械技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する機械技術者としての倫理観の基礎を身につける。

(A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力の基礎を身につける。

(B-1) 機械技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力の基礎を身につける。

(B-2) 機械工学の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力の基礎を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。

(C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。

(C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 機械工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力の基礎を身につける。

(D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

(D-2) 基礎工学（設計・システム、情報・論理、材料、力学）の基礎知識と能力を身につける。

(D-3) 機械工学のうち、その周辺学際分野にも共通な分野（環境、創生、エネルギー、計測・制御、安全等）の知識と能力を身につける。

(D-4) 機械設計技術者としての基礎知識を身につけ、この深度化と体系化を図るため次の4つの能力を修得する。

(1) 強度が保証され安全に利用することができる機械を設計するための材料の力学に関する能力

(2) 空気あるいは液体などの流体の力学的挙動を把握し、これを機械設計に適用する能力

(3) 機械の動力、あるいは利用効率に関わる物質の熱的な挙動を力学的に評価し、これを機械設計に適用する能力

(4) 機械の運動、あるいは振動についての力学的挙動を理解し、これを機械設計に適用する能力

(D-5) 機械工学とは異なる技術分野にも興味を持ち、これらと機械工学の知識とを複合する能力の基礎を養う。

(E) 情報技術を身につける。

情報機器を使いこなし、情報処理システムのプランを構築する能力の基礎を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1-1-①-12

電気情報工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

電気情報工学科では、近年の急速な電気・電子・情報技術の進展や今後の各種技術革新にも対応でき、国際性や倫理観を有する技術者を養成するため、情報化社会の基盤をなす電気・電子・情報の各分野についての基礎的な技術と知識を身に付け、高度細分化した専門技術や知識の自立的な修得を可能とする教育を目指している。本学科ではこの目標を効率的に達成するため、学生の資質に応じた教育を可能とする、コース別カリキュラムを四年次より導入している。電気電子工学コースと情報工学コースに分かれた教育カリキュラムにより、専門的技術と知識の効率的な修得を可能とし、電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけると共に、社会の要求に応えることのできる高度な専門技術と知識を修得した技術者の養成を目指している。

以上に基つき、電気情報工学科では本校 J A B E E プログラムと対応して以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

電気情報工学科で養成すべき人材像

電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけると共に、社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していける能力を身につけた技術者

電気情報工学科の学習・教育目標

- (A) 倫理を身につける。
 (A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
 (A-2) 電気・電子・情報技術が地球環境に及ぼす影響等を自覚する技術者としての倫理観の基礎を身につける。
 (A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。
 (B) デザイン能力を身につける。
 (B-1) 電気・電子・情報に関する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で問題を解決していくための計画を立てる能力を身につける。
 (B-2) 電気・電子・情報工学の基礎知識を活用して計画を実行し、得られた成果を解析して論文にまとめていく総合的なデザイン能力を身につける。
 (C) コミュニケーション能力を身につける。
 (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
 (C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。
 (D) 電気・電子・情報工学とその基礎となる学際分野及びその周辺の境界学際分野の、知識・能力の基礎を身につける。
 (D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
 (D-2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識とその应用能力を身につける。
 (D-3) 電気・電子・情報工学の周辺学際分野の共通分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の基礎知識とその应用能力を身につける。
 (D-4) 電気電子コース・情報コースにて、両コースに共通する基礎知識をバランス良く身につけるとともに、社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していける能力を身につける。
 (1) 電気・電子・情報工学の基礎となる主要な知識を身につけ、その应用能力を身につける。
 (2) 電気電子コースでは、電気・電子工学分野の基礎知識を身につけ、応用的な専門技術や知識を自立的に修得していける能力を身につける。
 (3) 情報コースでは、電子・情報工学分野の基礎知識を身につけ、応用的な専門技術や知識を自立的に修得していける能力を身につける。
 (E) 情報技術を身につける。
 (E-1) 情報機器を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた企画・構築・表現の基礎知識と能力を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1 - 1 - ① - 13

電子制御工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

近年における電子制御技術の進歩に代表される各種技術に柔軟に対応できる技術者の育成を目的とし、電子制御技術の高度化や専門細分化の進化に伴う時代の流れを適切にとらえ、その基礎となる基礎技術の習得ならびに、その応用展開としての電子制御システムの運用に実践的に関わることができる学生を育てることを教育目標とする。そのため、電気・電子、情報・制御、機械関連技術を統一的見地から総合的に駆使して、将来において、より高度で環境に配慮した知的システムを創造的に構築し展開できる人材を育成することが、電子制御工学科の社会的役割である。

以上に基づき、電子制御工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

電子制御工学科で養成すべき人材像

電気・電子、情報・制御、機械関連の基礎知識と考え方を身につけ、国際化する高度情報化社会の要求に応え、電子制御・情報制御技術を基礎として、創造的な技術改良・技術開発ができる能力を身につけた技術者。

電子制御工学科の学習・教育目標

- (A) 倫理を身につける。
 (A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
 (A-2) 電子制御技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理を身につける。
 (A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。
 (B) デザイン能力を身につける。
 (B-1) 電気・電子、情報・制御、機械に関する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。
 (B-2) 電気・電子、情報・制御、機械の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力を身につける。
 (C) コミュニケーション能力を身につける。

- (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
 (C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。
 (D) 電子制御工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力を身につける。
 (D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
 (D-2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。
 (D-3) 電子制御工学の周辺学際分野にも共通な分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の知識と応用能力を身につける。
 (D-4) 電子制御工学の専門分野における基礎知識を身につけ、それを活用して電子制御システムを運用できる能力や、社会の要求に応じて専門知識と技術を修得していける能力を養う。
 (1) 電気・電子工学を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。
 (2) 制御・情報、機械を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。
 (E) 情報技術を身につける。
 情報機器を使って、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた企画・構築・表現などを行うための基礎知識と能力を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1-1-①-14

環境都市工学科で養成する人材像および学習教育目標

「社会基盤」と呼ばれるモノ、それは例えば、車で走る、電気がつく、水を飲むといった当たり前の生活環境を支えているモノであり、通信・物流・輸送といった安全かつ円滑な社会活動を支えるためのモノであり、なにより自然災害から国土を守るためのモノである。これらはすべて我々にとって必要不可欠な存在であり、どのような世の中になっても決して無くなるものではない。そして、これらを実現する仕組みづくりが「社会基盤整備」なのである。

わが国の世界に冠たる社会基盤整備技術は、日本はもとより、人類の発展に大きく貢献しているが、今後はさらに環境容量の配慮が最重要課題となる。人類が持続的な発展をしていくためには、自然と共生した社会基盤の整備や地域の歴史や文化と調和のとれた創造的な都市づくりを実現できる技術者の養成が望まれている。

以上に基づき、環境都市工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

環境都市工学科で養成すべき人材像

人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備と、自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識・考え方を理解し、人類の持続的な発展を支える社会基盤整備を積極的に推進できる能力を身につけている技術者

環境都市工学科の学習・教育目標

- (A) 倫理を身につける。
 (A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
 (A-2) 環境都市工学にたずさわる技術者にとっての倫理の必要性を認識する。
 (A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。
 (B) デザイン能力を身につける
 (B-1) 環境都市工学に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。
 (B-2) 環境都市工学の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる基本的な能力を身につける。
 (C) コミュニケーション能力を身につける
 (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
 (C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。
 (D) 環境都市工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力を身につける。
 (D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
 (D-2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識を身につける。
 (D-3) 環境システムデザイン工学の学問共通分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の知識と能力を身につける。
 (D-4) 専門分野としての環境都市工学において以下の基本的な知識および考え方を身につける
 (1) 人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備に関する基本的な知識および考え方を身につける。
 (2) 自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識および考え方を身につける。
 (D-5) 各自が環境都市工学の主要 4 分野（構造系、水理系、土質系、計画・環境系）の内、もっとも得意とする

分野とは異なる分野にも興味を持ち、これらと得意とする分野の知識とを複合する能力の基礎を養う。

(E) 情報技術を身につける

情報機器を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた計画・構築・表現化の能力を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1-1-①-15

建築学科で養成する人材像及び学習・教育目標

建築学科では、人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する技術と教養並びに、それらを総合化する能力を教授することにより、実践的技術者の育成と創造性の涵養を目標にしています。

以上に基づき、建築学科では以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げています。

建築学科準学士課程で養成すべき人材像

人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する基礎的技術と教養を有し、それらを包括的にとらえることのできる技術者。

建築学科で養成すべき学習・教育目標

(A) 倫理を身につける

(A-1) 歴史的な背景・文化を理解し、建設技術に起因する社会問題や環境問題を捉え、人間として、また、技術者としての倫理観を身につける。

(A-2) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重し、地球的規模で社会問題や環境問題を捉えるという人間としての倫理を身につける。

(A-3) 心身ともに健康な技術者であるために、感性を中心とする認識・表現能力、健康管理および体力を身につける。

(B) デザイン能力を身につける

(B-1) 建築に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。

(B-2) 建築学の基礎知識を活用し、分析して成果を論文や設計図面にまとめる総合的なデザイン能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける

(C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力を身につける。

(C-2) 英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 専門知識・能力を身につける

(D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

(D-2) 設計・情報・材料・力学等、工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。

(D-3) 建築学の周辺学際分野にも共通な分野（環境、エネルギー、計測、安全等）の知識と応用能力を身につける。

(D-4) 建築学の専門分野の基礎知識を身につけ、さらに、専門性とその体系化をはかるために、次の分野に必要とされる能力と技術を修得する。

(1) 建築・都市に関わる社会的・地域的な視点を養い、よりよい生活空間を機能的かつ芸術的観点から計画する能力と設計に必要な技術

(2) 建築室内および外部空間において、省エネルギーを考慮しつつ適正な環境を保持するための環境要素の予測、評価、調整の方法と設計に必要な技術

(3) 建築物の内外で安心して社会活動が営めるよう、構造上安全な建築空間ならびに構造形態を計画する能力と設計に必要な技術

(E) 情報技術を身につける

情報機器を使いこなし、表現化して説明できる能力を身につける。

(出典 学生便覧)

資料 1-1-①-16

専攻科で養成する人材像および学習教育目標

人類が地球上で持続的に発展していくには、生産に関わる各種資源物質の枯渇の防止と、地球上の生態系に影響を及ぼす諸物質の拡散防止などへの配慮が欠かせない。このためこれからの「ものづくり」においては、人間の労働や知的活動を支援し、より快適な社会生活を営むための人工環境を提供する一方で、地球環境の保全や循環型社会の構築に関する配慮が重要となる。専攻科では、社会生活上必要な各種「機能」とそれを実現する「もの（機械、電気・電子機器、建築物、社会基盤）」、「空間（生活、都市、自然）」、「エネルギー」、「知識・情報」およびそれらの「制御・管理」などから構成される「環境システム」を、地球環境の保全を考慮に入れて構想し、設

計し、生産する、総合的なデザイン能力を育成することを目的としている。

以上に基づき、専攻科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

専攻科で養成すべき人材像

(電子システム工学専攻)

より確かな専門知識とそれを応用しながら、資源、エネルギーの有効利用および環境への配慮等を意識し、自然環境と共生・調和したヒューマンフレンドリーな知的機能システムを開発でき、異分野のシステム・技術を理解して、これと自らの分野にまたがるシステムを構築できる技術者

(建設工学専攻)

得意とする専門分野を深めそれを応用しながら、自然環境と共生・調和した循環型社会の創造や社会生活を営む空間の構築とそれらを自然災害から守る防御システムの構築等を達成するための発展的思考力を持ち、異分野のシステム・技術を理解して、これと自らの分野にまたがるシステムを構築できる技術者

専攻科の学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

(A-1) 地球の規模で社会問題や環境問題を捉える倫理観を身につける。

(A-2) 科学技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理を身につける。

(B) デザイン能力を身につける

(B-1) 実務上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。

(B-2) 基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的な能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける

(C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力を身につける。

(C-2) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 専門知識・能力を身につける。

(D-1) 数学・自然科学の高度な知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

(D-2) 基礎工学（設計・システム、情報・論理、材料・バイオ、力学、社会技術）の高度な知識と能力を身につける。

(D-3) 環境システムデザイン工学の専門共通分野（環境、創生、エネルギー、計測・制御、安全等）の高度な知識と能力を身につける。

(D-4) 最も得意とする専門分野のより高度な知識と能力を身につける

(D-5) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合し、人にも地球にも優しい環境システムを開発する能力を身につける。

(E) 情報技術を身につける

情報機器を使いこなす、情報処理システムのプランを構築する能力を身につける。

(出典 学生便覧)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程（資料 1-1-①-1）と専攻科課程（資料 1-1-①-2）の目的は、それぞれ独立して学則に明確に定められている。準学士課程の目的は、学校教育法第115条に規定された「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力…」の表現に則している。併せて、これに叶う「有為の人材を育成する」ことを使命としている。また、専攻科課程の目的は、準学士課程の目的を基礎として、これを深度化・高度化する趣旨で「高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識云々」の表現としている。さらに、学科及び専攻科ごとの具体的な人材像及び学習・教育目標が定められている。（1-1-①-10～16）

以上のように、学校教育法に規定され、かつ高等専門学校一般に求められる目的に合致した目的が定められている。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められている。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点到係る状況)

教育目的、教育方針等を学生便覧に明記し教職員に配布している。また、年度当初の教員会議で、教務主事の資料として、「教育理念」、「養成すべき人材像」、及び「教育目標」を記載した資料（資料 1－2－①－1）を基に説明している。また、これと同じ資料を年度初めの学級担任会議で配布し、各教室に掲示するとともに学級担任から学生に説明している。なお、本校 JABEE プログラムの学習・教育目標については、各科専攻科委員から学生に説明している（資料 1－2－①－2）。また、学生が毎朝通る学生用入口には、教育目標と教育理念をパネルで掲示している。（資料 1－2－①－3）

資料 1－2－①－1

平成 24 年度 第 1 回教員会議資料

岐阜工業高等専門学校の教育目標について

1. 教育理念

- (1) 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
- (2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
- (3) 情報化社会の最前線で活動すること。

2. 養成すべき人材像

科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者

3. 教育目標

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身に付け、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

4. 各学科で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標

各学科の学習・教育目標の分類	学校の標語
(A) 倫理	広い教養
(B) デザイン能力	ものづくり
(C) コミュニケーション能力	国際化
(D) 専門知識・能力	深い専門
(E) 情報技術	I T

各学科の具体的な学習・教育目標は、上記の分類に従って、学科別に示される。

(出典 平成 24 年度第 1 回教員会議資料 教務報告)

資料 1－2－①－2

平成 24 年度第 1 回学級担任会議資料抜粋

教務関係

1：学級担任の手引き

2：平成 24 年度の教育目標等について

① 本校の教育目的・目標について

内容（JABEE 関係の項目 5 を除く）を説明し、教室に掲示して周知してください。

② 「環境システムデザイン工学」教育プログラムの学習・教育目標について

例年、各学科の専攻科委員が、本科 4 年以上の学級で関連の掲示をされて学生への説明をされます。

3：平成 24 年度の学校行事（研修）について

（省略）

(出典 平成 24 年度第 1 回学級担任会議資料 教務報告)

(資料 1－2－①－3)



(出典 学生昇降口のパネル 教育目標と教育理念)

平成 24 年度末に卒業を控えた学生に対して行ったアンケート結果（抜粋）を資料 1－2－①－4 に示した。教育目標の認識度は平均して 2.6（5 段階評価）であり、学生への周知に対する改善が必要である。

資料 1－2－①－4

平成24年度 教育目標（準学士課程）に関するアンケート

点検評価・フォローアップ委員会

本校の教育の改善等のために、卒業時に教育目標（準学士課程）に関するアンケートを実施した。その結果を下記に示す。
5段階評価で5が最上である。

準学士課程の教育目標

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- (2) 基礎学力を身に付け、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

		5M	5E	5D	5C	5A	平均	平均(H23)
1	この教育目標を知っていますか？	3.0	2.4	2.1	3.0	2.9	2.6	3.0
2	(1) の目標はこれでよいと思いますか？	3.8	4.3	3.5	4.1	3.6	3.8	3.8
3	(2) の目標はこれでよいと思いますか？	3.8	4.2	3.6	4.1	3.7	3.9	3.8
4	(3) の目標はこれでよいと思いますか？	3.8	4.2	3.7	4.1	3.8	3.9	3.8
5	(4) の目標はこれでよいと思いますか？	3.8	4.3	3.6	4.2	3.8	3.9	3.9
6	(5) の目標はこれでよいと思いますか？	3.8	4.4	3.8	4.2	3.7	4.0	3.5
7	(1) の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.6	3.4	3.4	3.7	3.2	3.5	3.4
8	(2) の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.8	3.7	3.5	3.7	3.3	3.6	3.2
9	(3) の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.3	3.3	3.2	3.2	3.4	3.3	3.1
10	(4) の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.7	3.9	3.4	3.8	3.5	3.7	3.4
11	(5) の目標に対して、学校の教育に満足していますか？	3.7	3.6	3.4	3.8	3.4	3.6	3.3
12	あなたは (1) の目標を達成したと感じていますか？	3.4	3.2	3.2	3.7	3.2	3.4	3.2
13	あなたは (2) の目標を達成したと感じていますか？	3.4	3.1	3.2	3.5	3.2	3.3	3.3
14	あなたは (3) の目標を達成したと感じていますか？	3.1	2.9	2.9	3.2	3.2	3.1	2.8
15	あなたは (4) の目標を達成したと感じていますか？	3.3	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.3
16	あなたは (5) の目標を達成したと感じていますか？	3.4	3.4	2.9	3.6	3.4	3.3	3.2

分析

昨年度と同調査よりも概ね平均値は上回っているが、教育目標の周知のみ値が下がった。教育目標に対する周知を重ねて実施する必要がある。
(3) の目標についても、昨年度より、若干、値は上がっているが、依然として学校の教育に対する満足度も達成度もともに低い傾向が続く。次年度の改善等の参考とする。

(出典 点検評価・フォローアップ委員会資料)

教職員の教育目標等の理解度を調査するため、点検評価・フォローアップ委員会が実施したアンケートの結果を資料1-2-1-⑤に示した。1. 教育理念, 2. 養成すべき人材像, 3. 教育目標, 4. 各学科で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標, 5. 環境システムデザイン工学教育プログラムの学習・教育目標, 及び6. アドミッション・ポリシーの6項目について, 調査を実施した結果である。項目により, ばらつきはあるものの, これら6項目の認識度は5段階評価で, 3.1~3.7の範囲であった。

資料 1－2－①－5

2012.10.3

点検評価・フォローアップ委員会

将来計画委員会内の自己点検・評価検討WGから、『教育目標等の理解度』について自己点検を行うように指示があり、点検評価・フォローアップ委員会内の自己点検・評価実施WGにおいて、教育目標等に対する教職員や非常勤講師の意識調査等を行い、点検評価した結果を記す。

本点検・評価の目的は、教育目標等が教職員（非常勤講師を含む）に周知され、理解されているかどうかを分析、検証することにある。尚、評価は5段階評価とし、下記の基準とした。

	人文 10/10	自然 9/9	M 11/12	E 12/12	D 8/12	C 11/12	A 7/11	教員平均 68/78	総務 24/26	学生 14/15	企画 7/7	技術 13/13	職員平均 58/61	非常勤 21/40	平均 147/179	
1. 教育理念について	4.2	3.4	3.7	3.9	4.0	3.9	4.3	3.9	3.1	3.0	4.0	3.0	3.3	3.3	3.7	
2. 養成すべき人材像について	4.1	3.3	3.9	3.8	3.9	3.9	4.4	3.9	3.0	3.1	3.7	3.2	3.2	3.2	3.6	
3. 教育目標について	3.9	3.4	3.5	3.7	4.0	3.8	4.1	3.8	3.0	2.9	3.4	3.0	3.1	3.3	3.5	
4. 各学科で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標について	3.7	3.0	3.5	3.8	4.0	4.0	4.3	3.8	2.4	2.5	3.0	3.2	2.8	2.9	3.4	
5. 環境システムデザイン工学教育プログラムの学習・教育目標について	3.6	2.6	3.3	3.7	4.0	3.7	3.7	3.5	2.2	2.6	2.7	2.4	2.5	2.4	3.1	
6. アドミッションポリシーについて	3.4	3.1	3.6	3.6	3.9	3.6	3.4	3.5	2.8	3.1	3.0	2.8	2.9	2.5	3.2	
回答率								87%				95%			53%	82%

評価基準:5段階評価(5:よく知っている, 4:だいたい知っている, 3:何とか知っている, 2:あまり知らない, 1:全く知らない)

総括

全体として、教育理念、養成すべき人材像、教育目標、各学科での学習・教育目標はよく理解されていると思われる。専攻科課程の学習を含む「環境システムデザイン工学教育プログラム（JABEEプログラム）」の学習・教育目標については、全体として何とか知っている程度であるが、教員の評価だけでみると、おおむね理解されていることがわかる。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）についても、全体として何とか知っているという状況であるが、教員自体はおおむね理解されている。

懸念される点として、非常勤講師には各学科での学習・教育目標やJABEEプログラムの学習・教育目標が十分に理解されておらず、教務及び各学科のサポート教員の連携によって理解度を向上させる工夫が必要であると思われる。

(出典 点検評価・フォローアップ委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育理念、養成すべき人材像、教育目標、養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標、及びアドミッション・ポリシーの各項目が、各種の会議で周知され、各種の掲示ツールにも掲示されている。また、教職員及び学生に対して実施されたアンケート調査において、教育目標の認識度については、教職員は概ね周知されているものの学生の認識度はやや劣っており、また学習・教育目標の認識度については、職員及び非常勤講師の認識度がやや劣っており、改善が必要である。

観点1-2-②: 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点到係る状況)

ウェブを利用し、教育目標等を社会に公表している(資料1-2-②-1)。入試の広報誌である「学校案内(資料1-2-②-2)」には、教育理念を掲載し、本校主催の学校説明会、各中学主催の進路説明会、教育後援会工場見学会、岐阜高専一日入学、及び本校教員による中学校訪問等の機会に説明している。学校説明会で配布する「入学者募集要項(資料1-2-②-3)」には本校の目的、及びアドミッション・ポリシーを記載し、広く公開している。また、教育目標等を掲載した「学校要

覧（資料 1－2－②－4）」を近隣の高等教育機関、教育委員会、産官学連携関係企業、中学校等に配布している。配布部数に関わる状況を資料 1－2－②－5 に示した。

資料 1－2－②－1

The screenshot shows the official website of Gifu National College of Technology (GNCT). The page is titled '岐阜工業高等専門学校の教育の目的・目標について' (About the Purpose and Goals of Education at Gifu National College of Technology). The left sidebar contains a navigation menu with categories like '学校要覧' (School Overview), '学内施設' (Campus Facilities), '情報公開・提供' (Information Disclosure/Provision), '連携・取り組み' (Cooperation/Initiatives), and 'その他' (Others). The main content area is divided into several sections: '教育の目的' (Purpose of Education), '教育の基本方針' (Basic Educational Policy), '教育理念' (Educational Philosophy), '養成すべき人材像' (Image of the Person to be Trained), '教育目標' (Educational Objectives), and '学習・教育目標' (Learning and Educational Objectives). The '教育目標' section lists specific goals for both undergraduate and specialized courses, emphasizing the development of technical skills, practical abilities, and a global perspective.

岐阜工業高等専門学校の教育の目的・目標について

教育の目的

進学士課程
岐阜工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。

専攻科課程
高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

教育の基本方針

本校への多様な役割が期待される中にあって、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるといふ使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することが本校の教育方針である。教育理念、教育目標及びその具体的な内容は不断に改善し、計画的に教育・研究活動を実施する。より具体的には、以下に示すような「教育理念」、「養成すべき人材像」及び「教育目標」を高く掲げ、教職員はその目標に向かって努力する。

教育理念

1. 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
2. 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
3. 情報化社会の最前線で活動すること。

養成すべき人材像

科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者

教育目標

進学士課程

1. 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
2. 基礎学力を身に付け、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
3. 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
4. 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
5. 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

専攻科課程

1. 得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
2. 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
3. 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
4. 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
5. 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

学習・教育目標

各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標
(A) 倫理、(B) デザイン能力、(C) コミュニケーション能力、
(D) 専門知識・能力、(E) 情報技術

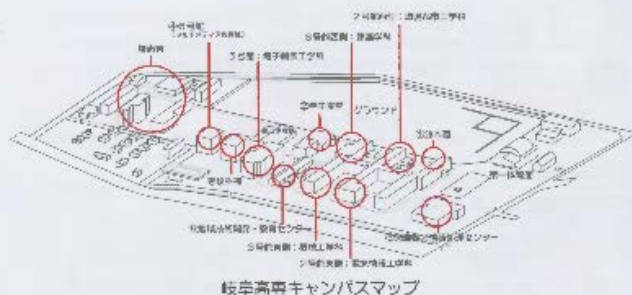
本校の標語
(1) 国際化、(2) I T、(3) ものづくり
→ (C) コミュニケーション能力、(E) 情報技術、(B) デザイン能力

教務の標語
(1) 広い教養、(2) 深い専門 → (A) 倫理、(D) 専門知識・能力

（出典 岐阜高専ホームページ）

岐阜高専の教育理念

- 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
- 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
- 情報化社会の最前線で活動すること。



ものづくりが好きな女子も在学

- 高専にも女子学生はたくさんいます。学科によっては半数近くが女子のクラスもあります。
- ものづくりが好きという気持ちに男女の境界はありません。自然への興味、生活の中での発見・驚き、工作・実験をするのが好きな女子の皆さんも、岐阜高専で一緒に学びましょう。



高専部員たちのコマ

岐阜高専の豊かな設備で楽しく過ごす

- 情報処理センター3演習室、6号館（マルチメディア教育棟）5教室の教育用システムパソコン378台をはじめ情報機器が十分に用意されています。
- 地域の人も利用できる図書館は一般書から専門書まで78,000冊の蔵書があります。
- 学生食堂は、安くてボリューム満点。売店では、パン・お菓子や勉強に使う文房具などが買えます。
- 個性的で魅力的なたくさんの部活動、同好会があります。また、グラウンド・テニスコートはナイター設備が整っており、遅くまで部活動が行えます。
- 自宅が遠い方には300人程度が生活する寮もあります。



①館本通
ケヤキの並木道がキャンパスを彩ります。グラウンド裏には緑の道も



②学生食堂
食堂はお得でおいしい食堂で、おやつは売店で



③図書館／情報処理センター
一般書から専門書まで揃った図書館。学生がPCを自由に使える情報処理センター



④6号館マルチメディア教育棟
4年生の教室は学習がここに集結。各教室は一人一台のPCがあります



⑤造形技術開発・教育センター
大抵のものはこの工場でつくることができます。実験の提案などで利用します

(出典 平成 24 年度学校案内)

2 岐阜工業高等専門学校の概要

1. 創立昭和 38 年 4 月 1 日
2. 目的教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とします。
3. 修学年限 5 年
4. 学科及び入学定員

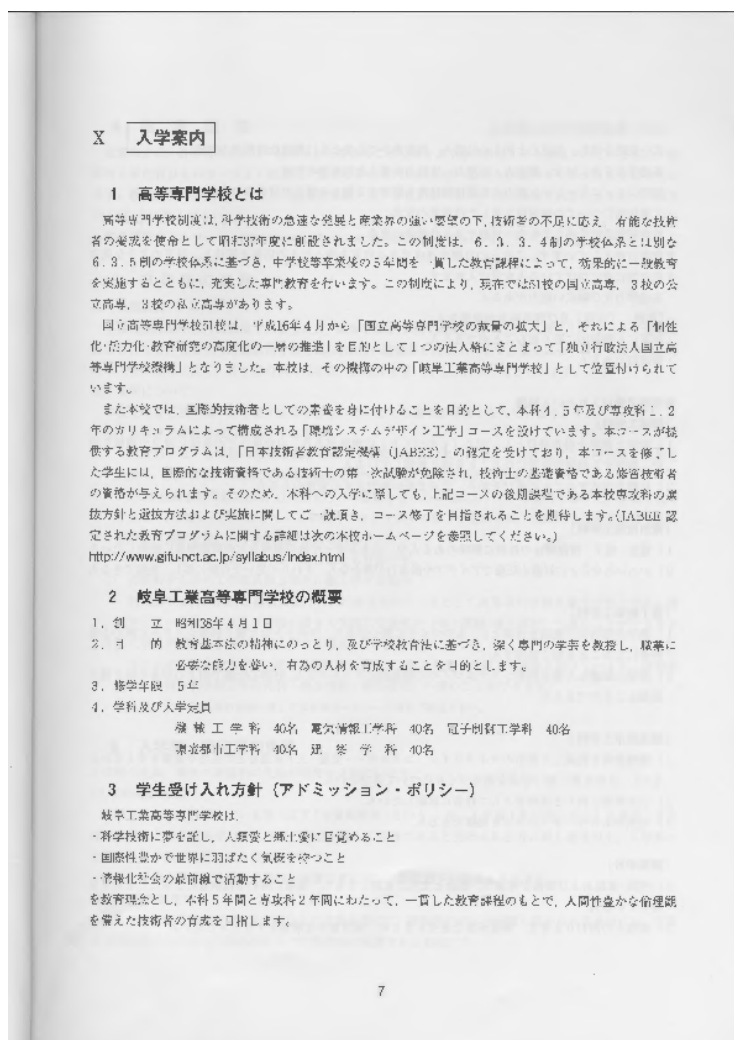
機械工学科 40 名 電気情報工学科 40 名 電子制御工学科 40 名
環境都市工学科 40 名 建築学科 40 名

3 学生受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

岐阜工業高等専門学校は、

- ・科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること
- ・国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと
- ・情報化社会の最前線で活動すること

を教育理念とし、本科 5 年間と専攻科 2 年間にわたって、一貫した教育課程のもとで、人間性豊かな倫理観を備えた技術者の育成を目指します。



(出典 平成 25 年度入学者募集要項の抜粋)

1. 本校の概要と教育方針

1. 概要

岐阜工業高等専門学校は、昭和48年4月に、機械工学科、電気工学科及び土木工学科の3学科を専門学科とする国立の5年制高等教育機関として設置されました。昭和49年には建築学科が、昭和63年には電子制御工学科が増設され5つの専門学科を持った学校として整備・拡充されました。さらに、社会の進歩や変革に見合った教育課程の改革を行うために、平成5年には土木工学科が環境都市工学科に、平成12年には電気工学科が電気情報工学科に改組されました。また、高等教育の一層の高度化を目指して、平成7年には学士の取得が可能な修業年限2年の専攻科が設置されました。専攻科設置後、平成15年には専攻科修了生の学力及び技術力を国際的に保証するため、本科4年生から専攻科2年半までを対象とした体系的な「環境システムデザイン工学」の教育プログラムを準備し、日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け、JABEE認定校を取得しました。続いて、平成16年から全国の国立高専が独立行政法人へ移行されたことに伴い、より一層の「個性化、活性化、高度化」を目指に邁進、今日に至っています。

本校の教育は、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為な人材を育成する」ことにあります。学生が社会で実践的技術者として活躍できるように、高等学校3年制と大学の前半2年間を合わせた修業年限5年制において、高等学校と同様な一般科目ならびに大学と同様な専門科目の中から、本校独自に精選した教育課程を編成し、効率的に5年間一貫教育を実施していることが特徴です。

専門学科は、それぞれ学科の特色を活かした教育課程を用意しており、社会の推移や要請に応じて教育課程自体も更新・改善され、学科ごとに学生受入れ方針ががされています。本校で学修する専門科目の内容は大学レベルと同等であり、「ものづくり」教育を重視した様々な実験や実習を通じて、学んだ理論を広く応用し展開する実践的な能力を学生は修得することが可能となります。また、修業年限5年の本科の教育課程を修了後、本校の専攻科において、一段と深く専門分野に関する学芸を学修し、あわせて、学術研究活動を通じてその成果を社会に還元する道が開かれています。

本校の教育課程の特徴は、中学校卒業後の早い段階から、実験・実習・実技などの体験的な学習を重視したため期や年少人数教育を行うことにより、企業界の期待に応えることが可能な実践的技術者を継続的に輩出していることです。また近年では、より高度な知識や技術を修得するために、本科卒業生の約45%の学生が専攻科への進学や大学編入学への進路を選択しています。

2. 教育の基本方針

本校への多様な役割が期待される中において、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるという使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急激な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かな倫理観を備えた技術者を育成することが本校の教育方針であります。教育理念、教育目標及びその具体的な内容は不断に改善し、計画的に教育・研究活動を実行しています。より具体的には、以下に示すような「教育理念」、「養成すべき人材像」及び「教育目標」を高く掲げ、教職員はその目標に向かって努力します。

3. 教育理念

（1）科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
（2）国際社会で世界に羽ばたく気概を持つこと。
（3）情報化社会の最前線で活躍すること。

4. 養成すべき人材像

科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際社会で情報化社会の最前線で活躍する技術者

(出典 平成 24 年度 学校要覧抜粋)

平成 2 5 年度入学者募集要項等配布内訳

- 1 配布先：583 校 詳細は別紙のとおり
岐阜県：187 校、滋賀県：101 校、愛知県：208 校 小計 496 校
三重県：42 校、長野県：45 校 小計 87 校
- 2 各中学校への配布部数

冊子名称	岐阜県、滋賀県及び愛知県	その他（三重県、長野県）
平成 24 年度入学者募集要項	3 部	2 部
学 校 案 内 2011 版	5 部	5 部
岐阜高専オープンキャンパスのご案内	2 部	2 部
岐阜高専学校説明会	2 部	2 部
公開講座パンフレット	別紙送付先一覧のとおり（各 1 部×160 校）	—
キラキラ高専ガールになろう！	1 部	1 部

高専ロボコン	別紙送付先一覧のとおり（各3部×258校）		—
	発行部数	配布部数（西濃印刷から送付する部数）	残り納品部数
募集要項	4,000	$496 \times 3 + 87 \times 2 = 1,662$	1,662
学校案内	11,000	$583 \times 5 = 2,915$	2,915
オープンキャンパス	40,000	$583 \times 2 = 1,166$	1,166
学校説明会	—	$583 \times 2 = 1,166$	1,166
公開講座	—	$160 \times 1 = 160$	160
キラキラ高専ガール	—	$583 \times 1 = 583$	583
高専ロボコン	—	$258 \times 3 = 774$	774

教務主事 殿
 いつもお世話になっております。
 学生課の●●です。
 ご依頼のありましたことについて、送付先については添付ファイルのとおりです。
 配布先についてはおおよそ以下のとおりとなりますので、よろしくお願いいたします。

*平成24年度実績

<学校案内>
 進路説明会 3,738 部
 P T A 訪問 165 部
 個別学校見学 32 部
 出前授業 739 部
 学校説明会 767 部
 オープンキャンパス 709 部
 中学校訪問 277 部
 塾関係 110 部
 一日入学 479 部
 その他（高専祭等） 1049 部 計 8065 部

<募集要項>
 P T A 訪問 50 部
 個別学校見学 5 部
 学校説明会 480 部
 オープンキャンパス 450 部
 中学校訪問 266 部
 塾関係 51 部
 一日入学 370 部
 その他（高専祭等） 540 部 計 2329 部

（出典 学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的を広く社会に公表する手段として、本校のWeb、入試広報誌の「学校案内2012」、入学者募集要項、及び学校要覧など、各種の手段を用いている。特に学校案内については、8000部以上を配布しており、本校の目的を量的にも広く社会に公表している。総じて、本校の目的を広く社会に公表していると言える。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

各学科では、それぞれの学科の使命に適した「養成すべき人材像」と教育目標を定め、学校全体の（A）～（E）の5項目の教育目標をブレイクダウンし、養成すべき人材像の育成をより具現化しやすくしている。

（改善を要する点）

教育目標等の周知については、学生及び非常勤講師への周知度が比較的低い。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校の目的は学則に明確に定められており、この内容は、本校創立当時から、学校教育法に規定された目的に適合するものである。また、学科、及び専攻科ごとの目的も項目ごとに詳細、かつ明確に定められている。これらの目的は学内の教職員や学生に周知されているのみならず、学外向けにも Web や入試広報関係の多様なツールや機会を通じて、広く社会に公表されている。